



地 域 研 だ よ り

地域

2007年2月20日
通巻1号

目 次

- グローバリゼーションの中の地域
.....石井 英朗 1～2
- いわきでのお手伝い
.....秋葉 明 2
- 2006年度のいわき地域を振り返って
.....福迫 昌之 2～3
- いわき地域活性化への提言
“地域経済ウォッチング” 総まとめ
.....大川 信行 4～5
- 平成18年度 地域経済・福祉研究所
活動報告 6～7
- 編 集 後 記
..... 7

グローバリゼーションの 中の地域

石 井 英 朗

いま、グローバリゼーションという世界史的潮流は、IT社会化という不可逆的進行の姿をとって地域の諸相に強烈なインパクトを与えています。

歴史的にみると地方都市存立の安定的基盤は、当該地域経済圏における賦存資源に依拠するものとしての1次産業と2次産業にありました。つまり、鉱工業ないし農林水産業という実体産業をベースとし、その結節機能を主軸とした都市の繁栄が約束されていたのであります。

しかし、情報社会化の進展が別名で経済のソフト化とイメージされるごとく、社会的生産の根幹をなす製造業においても、生産工程におけるシステムの思考が競争的環境のなかで支配的となり、部品生産のユニット化・モジュール化の急速な普及と同時的に、多様なアウトソーシングが活発に実行されています。つまり従来の工場生産のイメージが、現代的な資本蓄積構造の中枢をなしている自動車や

高度な家電製品などの耐久消費財産出部門では、まったく生産とサービスの境界が不明なカタチとなっているのであります。

第3次産業分野として総括されているサービス業における就業人口の確実で急速な増大は、たんに大衆消費社会の成熟としてとらえるのではなく、2次産業の変容と結びついていることを忘れてはなりません。

いまひとつ重要なことは、現代資本主義においては資本の過剰がそのピークに達しているという事実にあります。この事態を現実世界に移してみますと、経済学でいう金融が情報と深く関係して、国際化・世界化すると共に、その投資活動領域を想像を絶する方面にまで拡大するという事になっているのです。これをイギリスの優れた経済学者であったスーザン・ストレンジは『カジノ資本主義』とその著書で命名しました。

日本では構造的不況がまだ明るい出口を見出せず、ヒト・モノ・カネ・情報が東京という国際都市に一極集中していることは明確です。対事業所関連サービスを中心として新たな人口集積を呼びおこしているわけです。そして、いわば第2グループが大阪、名古屋、

第3グループが札幌、福岡、第4グループが仙台、広島といったところで、第5グループが県庁所在都市というようにサービス業の勢いが順序づけられます。端的に言って人口20万人以下の地方中小都市の存立基盤がますます失われているわけです。そもそも都市というのは背後にある地域圏産業に対する広汎なサービス機能に依拠していたからでありまして、地方都市が在来型の地場産業の代表である食品工業などに局限されたり、大企業の工場配置における孤立的な租界地の提供に止まるならば、現代都市発展のダイナミズムを形成する新型のサービス業態を連鎖的に展開させる経済的必然性を欠落させてしまうからであります。

地方都市振興の方策は内発型、ネットワーク型にあるといわれています。私もそう考えていますが、ただこのことはよほど腹を決めて知恵と粘りを持続しないと駄目になるという根拠は、グローバリズムが発現する気味の悪いくらい強いパワーにあることを訴えたい一念のゆえです。

いわきでのお手伝い

秋 葉 明

いわき市の経済は日本経済の歩みとともに発展してきた。農林業、鉱業、重工業そしてハイテク工業等、ある時には炭鉱跡地での観光開発などその時代の、あるいは次の時代の日本の中心的な役割を見せた産業が、同時にいわき市の産業の中心的役割を果たしてきた。当然のことながら日本の経済が大きく構造転換を見せている今日、いわき市の経済もまた大きく転換しなければならない。

ではどのような方向を目指すべきなのか。そのキーワードは「モノの時代から、豊かな時間と空間の創造」が求められているのである。それは、豊かな生活空間であったり、魅

力的で楽しい街の空間であったり、あるいは遠くから多くの人々を引きつける観光の空間などである。そこへ人々が行ってみたい街、住んでみたい街、憧れを抱くような街、そんな街が求められているのである。

そのためには、現在いわき市に住んでいる人々のニーズ、あるいは、いわき市を訪れてもらいたい人々のニーズに応えることである。今の日常の空間にはないが、いわき市に行けばそれがある、と思ってもらえなければ人々は訪れてくれない。そんなストーリー（話題、物語、うわさ、説明など）があって始めてストリーム（人々の動きや流れ）が発生するのである。その意味、で広い意味での「観光」が重要な要素になると考えています。

私は、東日本国大学において、交通経済、観光産業論等を担当しております。そして、いわき市における地域の交通問題にも取り組んでおります。いわき市に関連する委員会としては、平成15年度以降『いわき都市圏総合都市交通計画推進協議会』の委員長を務め、平成17年度には「常磐地区の移動手段の確保に関する社会実験運営委員会」委員長、また、平成18年度には「地域交通ステップアップ支援事業審査委員会」委員長など地域交通問題の検討を行っております。

これからも、いわき市にお世話になっている大学人の一人として、私なりの視点でいわき市を研究してまいりたいと思っています。

2006年度の いわき地域を振り返って

福 迫 昌 之

本年度は市制施行40周年といういわき市にとってまさに節目の年であり、様々な記念事業も実施された。それらについての評価や反省はさておき、個人的に関わったものを中心に本年度を振り返り来年度を展望すると、

「観光まちづくり」が主要なテーマとなるだろう。そしてそれを象徴するのが今年度公開され、数々の映画賞を受賞した「フラガール」である。

今更説明する必要は無いだろうが、常磐炭鉱閉山に沈む東北の地にハワイを作るという常磐ハワイアンセンター建設の物語は、作品の出来以外にも、フィクションでありながらそれを裏打ちする事実が持つ説得力もあったのだろう、大手配給ではない映画としては異例ともいえる100万人を大きく越える観客動員数を記録している。同じく「炭鉱から観光へ」を旗印に、むしろいわき市よりも知名度が高かったと思われる夕張市が、今年財政破綻したことによって、より対照的に映ったことも事実である。

今回画期的だったのはいわき市・いわき商工会議所・社団法人いわき市観光物産協会などが発起人となり「映画『フラガール』を応援する会（会長：櫛田一男いわき市長）」が発足したことである。一企業の成功物語ではなく、地域の宝を市民みんなで盛り上げようという体制を整えられたことは、地域ブランドの確立という点でも大きな一歩となった。いわき市では、映画館にめったに来ない多くの年配者など4万人の観客動員を達成したこともその成果の一つといえるだろう。個人的にはこの千載一遇のチャンスをもっと活かすことが出来たのではないかと思われるが、それは今後の課題とし、この動きを一過性のブームに終わらせないことが肝要だろう。こうした観光まちづくりを戦略的に推進するために、常にその必要性が論じられながらも実現に至らなかった「(仮称)観光まちづくりビューロー」の整備が、上記3団体を中心にようやく来年度から始動する。「いわきヘリテージ・ツーリズム協議会」など民間の動きも活発化する中で、いわきの観光まちづくりを総合的にプロデュースする役割を担っていく体制へ

の期待は大きい。

一方来年度は長年の懸案だった「いわき駅前再開発ビル」が完成し、再来年度の「いわき芸術文化交流館」のオープンまで平地区での大型プロジェクトが続く。平地区はいわき市の中心市街地として既に基本計画が策定されているが、他市の中心市街地と同様に、必ずしも活性化が進んでいない。しかし、ハード整備のみで中心性やまちの賑わい生まれないという意識が、ようやく商店会を中心に広がりを見せてきていることは明るい材料であろう。いわき市の玄関として市民のみならず市外からの来訪者を呼び込むためのソフト作りが求められる。

また、来年度のいわき市では久しぶりに大型の行政機構改革を実施する。本年度はその素案の取りまとめにあたったが、言うまでも無く組織を動かすのは人であり、機構改革は必要条件に過ぎない。例えば、トップマネジメントの強化を図るための副市長制度の導入、筆頭部となる「行政経営部」や「市民協働部」などは時代の要請に応えた機構だと言える。しかし、これらが「名は体を現す」ように機能するかどうかは偏にそれに携わる人、すなわち職員の資質に掛かっている。ただ今後は、それが専ら行政職員のみ委ねられるものではなく、まさに市民が協働できるかどうかまちづくりの成否を左右することは言うまでも無い。

このように、40周年を迎えたいわき市が様々な分野で本格的に新たな一歩を踏み出すのは来る2007年度であり、41年目のいわき市がさらに飛躍することを期待したい。

いわき地域活性化へ提言 “地域経済ウォッチング” 総まとめ

大川 信行

地元紙である「いわき民報」に“地域経済ウォッチング”を掲載させて頂いてほぼ6年になる。月1回であるから延べ60回登場したことになる。本学教員がそれぞれの専門分野から見た所見や提言が盛り込まれており、各教員の自主投稿を“地域研”が取りまとめている。

中心テーマは、主にいわき経済についてで、これまでの投稿を主な分野について大まかに内容をまとめると、①地域経済・産業：人口減少化のもとで地域力を育み財政力をつけることによって地域の自立を図ろうなど（6件）、

②都市・まちづくり・交通：新都市交通システムのあり方に関する具体的な提言等（5件）、③情報：向上する情報処理技術をうまく地域に利用することなどを提言（4件）、④教育・文化：大学と地域とが一体となって教育・文化を育もうなど（9件）、⑤環境・福祉・生活：地域全体で社会問題の解決を図ろうなど（8件）などとなっている。

具体的な個々の投稿内容は下表にとりまとめたが、個々の所感・提言がうまくまとまっているかは若干心もとない。個々に詳細をご覧になりたい方はお申し出頂きたい（なお、平成13・14・15年度の概要は「いわき民報」平成16年4月付を参照）。

「地域経済ウォッチング」概要（平成16年4月－平成19年1月）

分野	見出し	小見出し	要旨
地域経済・産業・地域活性化	地域活力とネットワーク	地元が発注、地元で消費	地域ネットワークの再構築と工夫で地元発注・地元消費を
	人口減時代の政策	地域の自立・自律を図れ	小さな政府化と財政力強化、人口減に対処せよ
	いわき地域の“自立”	問われる政策形成能力	政策形成能力をつけて都市間競争を勝ち抜こう
	談合は「悪」か	“調整”の歴史と論理	地方文化の第一義として相互信頼の事業発注方式が必要
	いわきの景況にかげりが	ウォッチャー調査のゆがみ	景気ウォッチャーを増やして的確な調査を
	実り多い加齢を	2007年問題とシニアベンチャー	シニアベンチャーで社会貢献と個人の内面的を
観光	いわきの観光再考	目標立て有機的連携を	観光を組織化するため仮称：観光まちづくりビューローの設立を
都市・まちづくり・交通	まちづくりと公共交通	クルマの流れに抗しきれず	平・小名浜間LRT（低床式市街地電車）の現実化を
	何となくホッとする	心安らぐ町をつくる	企業と大学がチームとなって安心して生活できる環境を
	夢に見るべきいわき市考	大切な地域住民の“理念”	伝承文化を地域住民が支えていわき市を文化都市に

分野	見出し	小見出し	要旨
都市・まちづくり・交通	路線タクシー	もうひとつの公共交通	“路線タクシー”をバスに代わる公共交通手段として
	開かれた「いわき」づくりに	「よそ者」の話も聞いてみよう	いわきの魅力・可能性は「よそ者」の視点から
行政	地方分権の主体	責任、主権者の住民にも	住みやすい社会の形成には義務と主権が問われる
教育・文化	大学に求められるもの	地域や日本の宝育てよう	地域と大学が一体となって進学環境を整えよう
	何となくホッとする	心安らぐ町をつくる	地域全体が大学を使って次世代の教育を
	公民館に出かけよう	交流できる立派な家に	公民館での老若男女が交流し活力を養おう
	教育と地域貢献	お互いに支え合える街に	ヘルパー養成でふれあいのまちづくりを
環境・福祉・生活	心のバリアフリー	人にやさしい社会をつくろう	いわき市を心のバリアフリー先進地に
	形容しがたい最近の日本	“病巣”地域社会で解決を	地域社会の共同的にかかわりで自殺等の社会的“病巣”を解決を
	介護の社会化	“してあげる”のではない	介護を受ける人の立場から介護のあり方を問い続ける
	子ども支援	ソーシャルワーカー導入を	ソーシャルワーカーの学校配置で学校での諸問題を解決を
	子ども虐待を防げ	社会条件整備をコストを	虐待のほか貧困、雇用等解決にもっと多くに社会的コストを
	「障害者自立支援法」	必要な官民協働の支援	予算をかけず市民との協働で地域生活支援を
	児童虐待	福祉と教育、連携強化を	福祉と教育が連携して対応を強化し、児童虐待を防ごう
	人間環境学のすすめ	環境生態学的な研究必要	人の環境、行動、思考法等の研究でテロ、無差別殺人等を解決
地域国際化	グローバル化	いやが応でも恩恵を受け	産業、環境等の国際化は楽観・悲観を超えて地域で解決を
情報	コンピュータを活用する	社会的関門解決のために	発展する情報技術をうまく使って社会や企業での諸問題を解決
	“大切なもの”とは何か	見えなくても心で探す	氾濫する情報を鵜呑みにすることなく“大切なもの”を見つけよう
	ブログをネットワーク	ビジネスへの本格活用	ブログの本格活用により地方独自のネットワークづくりを
	ビジネスや地域形成に効果	発展する“e-ラーニング”	地場産業の振興、起業化を“e-ラーニング”で

平成18年度 地域経済・福祉研究所 活動報告

シンポジウム参加等

- 講演 会：「まちづくり戦略」－いわき駅周辺地域を中心に－（いわき商工会議所青年部）
講師 大川 信行
- 講演 会：「浜通りの観光の戦略」－現状と今後の展開－（うつくしま浜海道観光振興協会）
講師 大川 信行
- 講演 会：「門前町と観光戦略」（福島県磐梯町）
講師 大川 信行
- シンポジウム：いわきの元気創造セミナー－地域資源活用新産業創出を目指して－
（社団法人いわき産学官ネットワーク協会）
コーディネータ 講師 大川 信行
- 講演 会：グローバリゼーションと地域（いわき経済同友会）
講師 石井 英朗
- 講演 会：『地域という劇空間』をベースにいわきを語る（いわき商工会議所）
講師 石井 英朗
- 講演 会：「いわき市の観光戦略」（いわき経済同友会）
講師 福迫 昌之
- 講演 会：「いわきの観光を巡る現状について」（じょうばん街工房）
講師 福迫 昌之
- 講演 会：「いわき市行政機構改革について」（いわき商工会議所）
講師 福迫 昌之
- シンポジウム：「新都市いわき創造の戦略」（いわき商工会議所）
パネリスト 福迫 昌之
- 講演 会：「いわき市の観光戦略2」（いわき経済同友会）
講師 福迫 昌之
- 講演 会：「新年度のいわき市の展望～観光まちづくりを中心に～」（いわき倫理法人会）
講師 福迫 昌之

対 外 活 動

- いわきヒューマンカレッジ
理事 石井 英朗
- 地域振興アドバイザー：平成18年度 宮崎県門川町（国土交通省）
アドバイザー 大川 信行
- いわき市産学官連携協議会（いわき市）
副会長 大川 信行
- いわき農林事務所農業普及事業外部評価委員会（いわき農林事務所）
委員長 大川 信行
- いわき市水道事業経営審議会（いわき市）
委員 大川 信行
- いわき商工会議所
理事 大川 信行

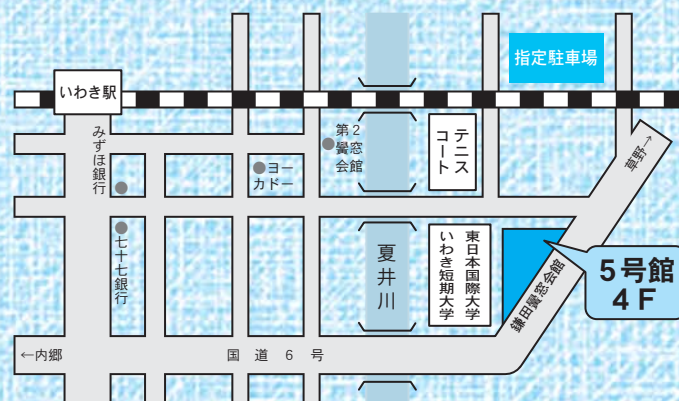
- いわきファイバーリサイクル研究会（社団法人いわき産学官ネットワーク協会）
委員長 大川 信行
- いわきビジネスプランコンテスト実行委員会・審査委員会（いわきリエゾンオフィス）
委員 大川 信行
- にぎわいふたば夢づくり委員会（双葉地方広域町村組合）
アドバイザー 大川 信行
- いわき都市圏総合都市交通計画推進協議会
委員長 秋葉 明
- 地域交通ステップアップ支援事業審査委員会
委員長 秋葉 明
- いわき市消費生活対策会議（いわき市）
委員 福迫 昌之
- いわき市地域情報化研究会（いわき市）
委員 福迫 昌之
- いわきパイロットオフィス・インキュベートルーム入居者選定委員会（いわき市）
委員 福迫 昌之
- 観光戦略プラン推進会議（いわき市）
委員 福迫 昌之
- 政策研究会（いわき商工会議所）
委員 福迫 昌之
- プロジェクトJ会議（いわき商工会議所）
委員 福迫 昌之
- いわき市行政機構改革市民委員会（いわき市）
委員長 福迫 昌之
- 図書館情報システム評価審査委員会（いわき市）
委員 福迫 昌之

編集後記

今年度は諸般の事情で年報『地域研究』に代わり、「地域研だより『地域』」を発行することになりました。今年は地方自治体の財政破綻や様々な事件が続発したために、地方が例年に無くクローズアップされました。地域研究と実践に対する社会的要請も益々高まっていますが、本研究所でもいわき地域を中心に地域との連携・交流活動を活発化させていきます。その成果等は様々な機会を捉えて発表してまいりますので、引き続きご支援、ご協力の程お願い申し上げます。（F）

執筆者紹介（掲載順）

- 石井 英朗 東日本国際大学経済学部長・教授、地域経済・福祉研究所研究員
- 秋葉 明 東日本国際大学経済学部教授、地域経済・福祉研究所研究員
- 福迫 昌之 東日本国際大学経済学部助教授、地域経済・福祉研究所研究員
- 大川 信行 東日本国際大学経済学部教授、地域経済・福祉研究所所長



地域〔地域研だより〕第1号

2007年2月20日 発行

発行者 東日本国際大学地域経済・福祉研究所
〒970-8567 福島県いわき市平鎌田字寿金沢37
TEL (0246) 35-0001(代) (内線461)
TEL & FAX (0246) 25-8885 (直)

印刷 株式会社ネクスト情報はましん
〒970-8032 福島県いわき市平下荒川字諏訪下36-1
TEL (0246) 25-0111 (大代)